

当社では、お客様に安全で快適な船旅を提供できるよう、次の取り組みを行ってまいります。

## 2022年度 安全方針と安全目標

---

### 1. 安全はすべてに優先します

- ①目標:整備不良事故0件、旅客負傷者事故0件、従業員作業事故0件
- ②発航前点検の徹底
- ③基本動作の励行と指差呼称の徹底
- ④情報伝達・コミュニケーションの確保

### 2. 法令及び諸規則の順守

- ①運航基準の順守
- ②未承認の改造・改修工事の禁止
- ③船員の適切な労務管理

### 3. 常に安全の維持・向上

- ①ヒヤリハット情報収集・拡大並びに対応
- ②災害対応訓練の定期実施(地震・津波、火災、水難等)
- ③内部監査による業務他取組状況の定期見直し

### 4. 自ら考える組織

- ①故障・不具合に対する原因究明と再発防止
- ②社外研修への積極参加
- ③船内コミュニケーション並びに連絡・伝達システム構築

### 5. 顧客を意識した事業活動

- ①身だしなみチェックと制服着こなしの統一化
- ②お客様への積極的なお声がけの実施
- ③各種CS情報と対応の徹底

## 安全運航への取り組み

---

### 1. 安全管理規程他

「運輸安全一括法(平成18年)」に基づき、輸送の安全を確保するための対策を定めた「安全管理規程」を作成し、国土交通大臣に届け出ることが義務付けられています。

当社では、安全管理規程に基づいて日々安全運航に努めるとともに、運航細部において運航基準、作業基準等を定めお客様の安全を優先し運航しています。

### 2. 運輸安全マネジメント

当社では、運輸安全マネジメントのPDCAサイクルに沿って、安全に対する計画、実行、評価、改善のスパイラルを全職員が一丸となって取り組み、個々のスキル、技術を向上させ事故防止を図っています。

### 3. ヒヤリハット情報の収集

当社では、小さな情報を職員が共有することで、大きな事故を未然に防ぐことを重要視しています。このため、船員からのヒヤリハット情報(予期せぬ出来事、危険と思われる事案など)を収集し「船長会議」「船機長会議」を通して共有し改善を図っています。

### 4. 訓練の実施

毎年、定期的に訓練(地震・津波、火災、水難等)を実施し、危機管理意識を徹底しています。



### 5. 船の安全性

毎年、船体の点検(ドッグ入渠)を実施し、船体の安全を確認しています。

また、通信設備として「国際VHF無線機」「衛星電話」「パーソナル無線」を設置し、各機関との連絡体制を構築しています。

## 安全設備のご案内

### 1. 救命胴衣

船舶救命設備規則により、救命胴衣数は旅客定員のプラス 10%を搭載しています。

イルドバカンス3世号 定員 868 名 救命胴衣988個

イルドバカンスプレミア 定員 605 名 救命胴衣 690 個

救命胴衣は、各座席の下、通路階段下などお客様が船内のどのような場所においても、すぐに装着できるように備えてあります。



### 2. 救命浮器

緊急事態が発生し退船が必要となった場合には、救命浮器にて退船を行います。

イルドバカンス3世号 定員 868 名に対し 16台 880 人収容

イルドバカンスプレミア 定員 605 名に対し 12台 660 人収容



救命浮器の設置状況

#### ◇緊急時の船員誘導や救命胴衣の装着について

船員は緊急時の誘導、各種救命器具の取り扱いについては、十分な訓練を受けております。

船員の指示に従って行動をお願いします。